

『悪魔との戦い①』

'23/06/04



聖書箇所: エペソ人への手紙 6章 10-12節 (新約 p.381)

いよいよ…、この、「エペソ人への手紙」の学びも終わりに近づいてきました…。この手紙を書き残してくれたパウロは、すべてのクリスチャンたちに対して、救いの素晴らしさを伝え、そして、救われた者たちは、どのように生きていくべきなのか？ということをお教えてきてくれました。それはつまり、言い換えますと…、この手紙の 4:1 にあったように、イエス・キリストを信じて、神の子とされた1人1人が、『その召しにふさわしく…』(エペソ 4:1) 歩んでいく、ということなのです。

しかし、一口に、『その召しにふさわしく…』歩んでいくと言いましても、それは決して、たやすいことではありません…。そうですよね？だって、私たちの毎日の歩みが、神様を証しすることの難しさや…、イエス様に倣って歩んでいく…、イエス様を模範として生きていくことの難しさを証明しているじゃないですか！しかも、それだけではありません。みことばは、私たちが必ず意識しなければならない…、強大な敵がいることを、私たちに教えてくれているのです…。

命題: 悪魔との戦いに勝利するためには、どうすれば良いのでしょうか？

だから、パウロは、この手紙を書き終えるにあたって…、今日から学んでいく聖書箇所を書き残してくれたのです。「私たちクリスチャンは、必ず勝利できる！」って…。確かに、いろんなものに打ちのめされるような時が来るかも知れませんが…。大きな迫害や悲しみを経験するかも知れませんが…。でも、そんな中にあっても、私たちは心配するには及びません…。何故なら、みことばが、私たちに約束してくれているからです！「必ず勝利する道が残されている！」って…。パウロは、今日のみことばである、エペソ 6:10-12 を通して、私たちクリスチャンが意識しておくべき敵である、「悪魔」についてお教えています。そして…、どうしたら、私たちが、毎日の生活で、その悪魔に勝利していけるのか、そのことをお教えています。

初めに申しておきますと…、私たちが、悪魔に対して勝利していくために必要な3つのものは…、①まず第1に、「神様の力」です…。それについては、今日、皆さんと一緒に学んでいきます。②次に、13-17 節の部分で教えられている、「神様の武具」です…。③3つ目は、18-20 節で教えられている、「神様への祈り」です。今日は、悪魔に関することと…、その悪魔に勝利するための神様の力について、学んでいきたいと思えます。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 6:10-12 をご覧ください。初めに、与えられたみことばをお読みしたいと思います。

10 終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。

11 悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。

12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天に
いるもろもろの悪霊に対するものです。

I・神の力をいただく！(10-12節)

私たちが、悪魔との戦いに勝利するために必要なこと…、先程も言いましたように、その第1番目は、神様の「力」をいただく！ということなのです。今日のところは、まず、そのことを皆さんと一緒に確認していきましょう。

パウロは、この手紙をずっと書き進めてきて…、いよいよ「結びの言葉」を述べようとしています…。それが、10 節の、『終わりに言います。…』という表現です。当然のことですが、この表現は、パウロが、ただ単に…、「この手紙はもうすぐ終わりますよ…」ということだけを言いたかったのではなく…、この手紙を終えるにあたって…、最後にどうしても伝えたいことを、私たち読者に意識させるための言葉なのです…。

●クリスチャンにとっての、本当の敵とは？

そこで、パウロは、私たちクリスチャンが意識すべき「敵」について、はっきりと教えてくれています。それが、悪魔…、あるいは、サタンとも呼ばれる存在です…。私たちは、さますると、この目には見えない敵の存在を忘れてしまいがちです…。しかし、聖書のみことばが教えることは、私たち、すべてのクリスチャンが、この敵である悪魔と、そのグループのことをしっかりと意識しておかなければならない！ということをお教えるのです…。「悪魔のことなんて…、そんなに強く意識しなくても、ただ、神様の前に喜ばれることだけをしていれば良い…」ということは、決して間違いでは無いかも知れませんが…。しかし、今日のみことばは、「いや、それだけでは不十分ですよ…」ということをお教えているのです。

この 12 節をご覧くださいと、『私たちの格闘は…』とあります。ここで使われている『格闘』というギリシア語の言葉(παλι)は、どちらかと言うと、個人的な「1対1」の戦いなどに使われる言葉です。つまり、ここで、みことばは、「悪魔との戦いは、イエス様をお信じになった個人個人が経験すること…、私たち1人1人が経験し…、そして、勝利していくべき戦いである」ということをお教えているのです。確かに、イエス様は、荒野で悪魔の誘惑に対して勝利され、また、あの十字架の死にさえも勝利なさいましたが…、でも、それとこれとは別で、私たちは皆、1人1人が悪魔との戦いにおいて、勝利していかないとはいけないのです！

続けて、みことばは、こうお教えます。これも 12 節ですが、『私たちの格闘は血肉に対するものではなく…』とあります…。ここで言われている、『血肉』(原語では、「血と肉体」とは明らかに、人間を指しています。つまり、「私たちの個人的な戦いは、対人間との戦いではない！」ということなのです。

実際、パウロ自身が経験したように…、特に、あの当時は、多くのクリスチャンたちが信仰の故に迫害されたり…、職を失ったり…、あらゆる疑いをかけられたり…ということがたくさんありました…。例えば、イエス様を攻撃したような律法学者やパリサイ人…、多くのユダヤ人たち…、あるいは、クリスチャンのことを良く思わない未信の者たち…、また、支配する側であった歴代のローマ皇帝たちがそうでした…。そういった中で、実に、多くのクリスチャンたちが、そういった迫害の故に、いのちさえも奪われるようなことがあったわけですから…。実際、パウロも、その中の1人でありました…。

しかし、そのパウロが言うのです！「そういったような…、目に見えて、自分たちを迫害するような者たちは、本当の敵ではない！」って…。みことばが教えてくれている…、私たちクリスチャンが本当に意識しなければならない相手は、そういった人々を見えないところで操っている悪魔なのです！悪魔こそが、私たちがしっかりと意識し…、戦いを挑んでいくべき相手なのです！

●悪魔は、どのようにクリスチャンを攻撃するでしょう？

では、実際に、悪魔はどのようにして、私たちクリスチャンに対して「攻撃」してくるのでしょうか？どうぞ、11 節をご覧ください。『悪魔の策略に対して…』とあります。悪魔は、クリスチャンである私たちに対して、策略を立てて…、攻撃してくるのです。それは、つまり、どういうことなのでしょう？

例えば、皆さん。どうぞ、創世記 3:1-6 をご覧ください。そこに、こう記されています。『1 さて、神である【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」 2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。 3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけなからだ』と仰せになりました。」 4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。 5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」

6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。』

ここで、悪魔は、エバに対して、どんな攻撃をしかけたのでしょうか？…明らかに、エバに対して、無理矢理、『善悪の知識の木』(創世記 2:9,17)の実を取って、食べさせたわけではありませんよね…。悪魔がしたことは、①まず、神様のお言葉&約束に対して、疑いを持たせたのです。「神は、本当に、そんなことを言われたのですか？そんなことないですよ！」って…。そうすることによって、神様に対して、疑いを抱かせ…、神様を信頼しないように仕向けたのです…。

また、それだけではありません…。今読んだ、創世記 3:5にこうありました。『あなたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。』⇒ここで、悪魔は何をしたのでしょうか？②それは、人間の願い&欲求を増長させたのです。私たち人間の心の奥底にある…、「もっと偉くなりたい！もっと制限なく、自分の好きなことをしたい！」というような思いをくすぐって…、私たちに罪を犯させるよう誘惑したのです…。確かに、この6節を見てみると、悪魔の誘惑を受けて、エバが改めて、その木を見ると、その木が、「自分のことを賢くしてくれる」と思ってしまったようで、そのために、「いかにも好ましく見えてしまった」わけですね…。

どうか、皆さん、今先程お読みした、創世記 3:1 の初めに注目してください。そこに何と、あります？⇒『さて、神である【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。…』とあるように、悪魔は非常に狡猾なのです！しかも1番に！エゼキエル 28:15には、『あなたの行いは、あなたが造られた日からあなたに不正が見いだされるまでは、完全だった。』とあって、悪魔は、最初の罪を犯すまでは、完全な存在であったことが教えられています。恐らく…、ここで使われているような表現を、私たちは簡単には見付けることはできないと思います…。つまり、それほど…、悪魔は、その当初から問題の無い…、善い存在であったのです。悪魔は、不正を行なうまでは、完全でした…。まず間違いなく、神様によって造られた者の中で、悪魔以上に、知恵や力のある者はありません！それ故に、悪魔は高慢になって…、このようなことを考えたのです。

恐らく、それが、あの、イザヤ 14:12-15 に記されてあるみことばです。『12 暁の子、明けの明星よ。どうしてあなたは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしてあなたは地に切り倒されたのか。13 あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。14 密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』15 しかし、あなたはよみに落とされ、穴の底に落とされる。』

一体、どうして、悪魔は、罪を犯してしまったのでしょうか？…今、読んだみことばには、2回も繰り返されて、『どうして』という言葉が使われてありました。…このみことばは、そういう理由について教えてくれているのです。…それは、悪魔が、与えられた環境で満足しようとはせず、神のようになりたいと思ったからです。…と云いますのは、どうぞ、13-14 節をご覧ください。ここで、悪魔は、「天に上ろう」と(心の中で)言います。天というのは、神様の御住まいです。また、その後、こう続きます、「神の星々のはるか上に私の王座を上げ…」とありますが、「神の星々のはるか上に、王座がある」のも、これまた、神様のことです。そうして、恐らく、「北の果てにある会合の山に座られる」のも、神様だけの特権です。最後、14 節の「密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。」ここなんて、ほぼ、決定的です。…と云いますのは、「いと高き方(=神)のようになろう！」なんて、言うわけですから…。つまり、悪魔は、神様を尊敬するがあまり、神様のことを見習おうとしたのではなく…、ただ、自分の地位や待遇が神様のようになることを願ったのです。…そうじゃありません？

また、こんな出来事も、皆さんはよくご存知だと思います。旧約聖書にある出来事ですが…、その昔、

ヨブという神様を信じる人物がいました…。しかし、悪魔は、神様に向かって、こう言うのです…、「あのヨブが、神様を信じ…、あがめているのは…、神様がヨブに良いものばかりを与えているからだ！」って…。そうして、悪魔は、神様の御許しの範囲内で、ヨブの持ち物を奪い…、その家族やヨブの健康さえも奪い去ってしまうのです…。

③このように、悪魔は、時には、人間たちの環境に、直接、何らかの影響を与えることがあります。しかし、悪魔の目的は、ただ単に、病を与えたり…、問題を起こしたりすることにあるではありません。④悪魔は、ヨブが神様を呪って…、あのアダムやエバたちのように、罪を犯すことを期待していたのです…。そうですよね？

皆さん。みことばがはっきりと教えてくれていることですが…、まず、悪魔は実在するということです。悪魔は、絵本の中でしか存在しないような…、架空の存在ではありません。しかも、この悪魔は、私たちの誰よりも…、はるかに知恵があって、しかも、段違いに強くて…、なおかつ、誰よりも狡猾なのです。すべての被造物の中で、最も悪知恵が働くのが、悪魔です。だからこそ、私たちは、この悪魔のことを学び…、悪魔の策略を知って…、そのための備えをして…、悪魔との戦いを意識していかなければならないのです！

どうぞ、もう1度、今日のみことばに戻ってくださいます？エペソ 6:12のみことばは、こう教えます。『私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。』とあります。ここで言われている、『主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊…』とは、一体、何を指しているのでしょうか？

⇒多くの聖書研究者たちが共通して言うのは、「御使い」たちです。以前、エペソ 1:21 のみことばを学んだ時も、そうでしたが、これらはすべて、複数形で書かれています。実は、この当時…、様々な権力や力、あるいは、支配者たちも…、「その背後には御使いたちが居て…、その御使いたちが影響を及ぼしている…」と考えられていたそうです。ですから、特に、新約聖書の中には、こういったような言葉が、御使いたちと関連付けられて出てくる場合が何ヶ所かあるのです(エペソ 1:21; 2:2; 3:10; 6:12; ローマ 8:38; コリサイ 1:16; 2:10,15; I ペテロ 3:22 など)。

それと、このことは、皆さんも覚えていらっしゃると思いますが、例えば、マルコ 5 章で、ある悪霊に取りつかれていた者の話が出てきます。…その男は、悪霊の故に、大変な力持ちで、誰も彼を抑えつけることはできませんでした…。その名は、『レギオン』と言い…、その言葉は、当時、「6,000」を表わす言葉でした。…つまり、みことばが教え…、また、私たちが覚えるべきことは、悪魔は唯一で、その力は限られていたとしても…、その悪魔につき従う、悪魔たちの軍勢は多勢なのです。数え切れない…とまでは言いませんが、決して、少数では有り得ません…。みことばを見てみると、そういった悪霊たちの一部は、神様によって閉じ込められているということが教えられています。例えば、II ペテロ 2:4 には、『神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれました。』と書かれてある通りです。しかし、悪霊たちのある者たちは、天にいたり…、悪魔の傍にいたり…、私たちのすぐ近くにいたりして…、様々な情報を交換し合ったりして…、悪魔のために、日夜、忙しく…、策を練ったりして…、悪魔のために働いているのです！

以上のことをまとめてみますと、①まず第1に、悪魔とは、あらゆる被造物の中で、最も知恵も力もあるような存在であるが故に、私たち人間では、本来ならば、到底、太刀打ちできないような相手なのです。②第2に、そうして、そんな悪魔が、多くの仲間たちを従えて…、私たちの周りには存在しているのです。③第3に、その悪魔たちは、その勢力をもってして…、神様と、その神様に属し…、神様につき従おうとし

ている私たちクリスチャンに戦いを挑んできているのです。しかも、その戦いは、皆さんが意識しようがしまいが関係ありません！皆さんが、イエス様を信じ、救われた瞬間から、悪魔との戦いが、もう既に始まっているのです。何故なら…、その瞬間から皆さんは、それまでの主人であった悪魔に背いて…、言わば、悪魔を裏切って、神に属する者へと生まれ変わったからです！

悪魔たちは、巧みに、私たちクリスチャンに働きかけて…、神様のお言葉である聖書に対する信頼を失わせようとします。神様に対する不信感を持たせて…、クリスチャンたちが罪を犯し…、神様のために働かないようにさせます…。皆さん、ご存知ですか？悪魔が救われた皆さんに対して、何を願っているか？⇒それは、皆さんが何もしないことです！確かに、皆さんが1度救われてしまったら、悪魔は、もう、皆さんから救いを奪うことはできません…。しかし、悪魔が、救われた皆さんに対して願っていることは、今後、できるだけ、皆さんが伝道したり…、奉仕をしたり…、神様に従っていかないことなのです…。

ひょっとしたら、皆さんは、今現在、そのような、悪魔の策略に惑わされてしまっていないでしょうか？今、ひょっとして…、皆さんの心の中には、「悪魔なんて、本当に居るのだろうか？」なんて考えてしまっているかもしれませんか？もし、そうなら、もう既に、あなたは悪魔の策略にはまってしまっているのです…。あるいはまた、「自分一人くらい、どう生きていこうと、何も変わりはない…」なんて、思っている人も同じです。悪魔は、そうやって、私たちを惑わしているのです…。

ヘブル 2:16 のみことばが、『主は御使いたちを助けるのではなく、確かに、アブラハムの子孫を助けてくださる…』と教えられてあるように、悪魔や悪霊たちに救いは用意されてありません。悪魔は自分の最期が裁きであり…、永遠の地獄&苦しみであることをよく知っています。ですから、悪魔は、1人でも多くの者を道連れにしようとしているのです。悪魔は、誰よりも狡猾です…。この日本では、例えば、祖先を敬うということと、キリストの教えとが全く相反すると信じ込ませて…、福音が広がることを邪魔しています…。数多くの占いや、「スピリチュアル」などというようなものを使って、人々の霊的な関心を別の方向に向けようとしています…。悪魔たちは今、「あなたは、自分を愛しなさい」などと言って、聖書がはっきりと罪であると教えているような事柄に関しても、惑わしてきます。悪魔だけでなく…、数多くの悪霊たちが、そういったことを巧妙に仕組んで、世の人たちを…、また、クリスチャンたちのことを惑わしているのです…。

●悪魔との戦いに 勝利 するためには？

じゃあ、一体、どうしたら、私たちは、そのような悪魔との戦いにおいて、“勝利”していきことができるのでしょうか？私たちとは比較にならないほど、知恵も力もあって…、また、たくさんの仲間たちを従えている悪魔たちに、私たちは、一体、どうやって立ち向かっていけば良いのでしょうか？

⇒次回の礼拝で、神様の武具というものに関して学んでいきたいと思いますが、今日、皆さんにしっかりと理解していただきたいことは…、悪魔とその軍勢とに対抗するためには、私たち人間の知恵や才能…、努力などといったものではなく…、神様の力しかない…、ということなのです。もう既に、私たちが学んできましたように、悪魔は被造物の中で、最も完全に近かった存在です。だからこそ、その悪魔に対抗するには、神様の力で…、神様の教えてくださる方法で立ち向かう以外にありません…。

だからこそ、パウロは、今日のみことばの エペソ 6:10 で、こう教えてくれているのです、『主にあって、その大能の力によって強められなさい。』って…。『主にあって…』、つまり、これは勿論、「神様にあって」という意味ですが、この表現は、文法上、次のような解釈の可能性があります…。①第1に、「主に従って…」、②第2に、「主に代表されて…」、③第3に、「主に結び付けられて…」、という3つのパターンです。まず、間違いなく、ここでは、3つ目の、「主に結び付けられて…」という意味だと思われます。

私たち人間は、主なる神様と結び付けられていることによって…、イエス様から力をいただくことができるのです！それは、ちょうど、ヨハネ 15 章で、イエス様が、『わたしはまことのぶどうの木』(ヨハネ 15:1) であると

話して下さったメッセージと合致します…。そこで、イエス様は、『4 …あなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。』(ヨハネ 15:4-5) と教えて下さいました…。

イエス様こそが、まことのぶどうの木で、私たちはその幹に繋がる枝なのです！この場合、枝そのものには、何の力も…、いのちの源もありません…。しかし、枝がしっかりと幹に繋がっているからこそ…、そこで、初めて、栄養分を受けて、実を結んでいくことができるわけです…。

では、まことのぶどうの木である、イエス様に繋がるとはどういうことなのでしょう？…ヨハネ 15:10 には、このように書かれています。『もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。』⇒ここでイエス様が教えて下さっていることは、「みことばを守り行ないなさい！」ということです。それはつまり…、言い換えれば、「神様に従う！」ということではないでしょうか？

実は、このことは、ヨハネの福音書を書き記した、そのヨハネが強調したかった教えでもあります。だから、この、「イエスにとどまる」とよく似た表現を、(使徒)ヨハネは何度も記してくれています。例えば、ヨハネ 6 章です。そこで、イエス様は、あの「5000 人の給食」の奇蹟を行なった後で、御自分が、『いのちのパン』(ヨハネ 6:35) であると話しておられます。そのあとで、イエス様はこうおっしゃるのです。ヨハネ 6:56、『わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしも彼のうちにとどまります。』と…。残念ながら当時、この言葉を聞いた弟子たちの多くは、イエス様の語られた真意を理解できなかったばかりか、その言葉に失望してイエス様のもとを去って行ってしまいます…。しかし、今の私たちには、このイエス様の教えが分かりますよね。『わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む』とは、まさしく聖餐式のことですよ…。私たち、聖餐式の時に何をしますか？みことばは何と教えていますか？⇒イエス様の十字架と、その犠牲を覚えて、自分を吟味しつつ、神様に喜ばれる正しい歩みをしていくことですよ。言い換えれば、信仰とその実践です。

また、ヨハネ 8 章で、イエス様は、『信じた(とされる)ユダヤ人たちに』おっしゃいます。『もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。』(ヨハネ 8:31) って…。ここで、イエス様は何をおっしゃっておられるのでしょうか？⇒実は、「イエス様を信じた」と言う者たちの中で、本当の弟子と、そうでない弟子たちがいると言うのです！本当に衝撃的な内容ですが、こういったことは、使徒ヨハネだけでなく…、イエス様御自身も、そしてまた、あのパウロや主の兄弟ヤコブも教えてくれている内容でしたよね？

ですから、私たちは、悪魔の勢力に対して勝利するためだけではなくて…、自分自身の信仰というものを吟味するためにも、「みことばに従って生きていく」ということを、決して、おろそかにすべきではありません。そうじゃないでしょうか？

また、それ以外にも、私たちと神様とを引き離す厄介なものがあります。それは、罪です！だから、私たちがしっかりと、毎日毎日犯してしまった罪を、日々、清算していく必要があるのです…。だから、イエス様だって、例えば、ヨハネ 13 章で、弟子たちの足を洗う時に、どんなことを教えて下さいましたか？…ヨハネ 13:5-10、『5 それから、(イエスは) たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまとっておられる手ぬぐいで、ふき始められた。6 こうして、イエスはシモン・ペテロのところに来られた。ペテロはイエスに言った。「主よ。あなたが、私の足を洗ってくださるのですか。」7 イエスは答えて言われた。「わたしがしていること

は、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになります。」8 ペテロはイエスに言った。「決して私の足をお洗いにしないでください。」イエスは答えられた。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」9 シモン・ペテロは言った。「主よ。私の足だけでなく、手も頭も洗ってください。」10 イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。あなたがたはきよいのですが、みながそうではありません。』

この時、イエス様は、肉体的なきよさ(=清潔さ)のことだけを言われたのでしょうか？…いいえ！そうではありません。だから、今読んだみことばの最後に、『…あなたがたはきよいのですが、みながそうではありません。』とおっしゃられたのです。…と言いますのは、そこには、イエス様のことを裏切ろうとしていたイスカリオテが居たからです。…私たち、イエス様を信じて救われた者たちは皆、確かに、信仰によって清められました。しかし、実際は、私たちは救われた後も、日々、罪を犯してしまいます。…皆さんも、そうでしょ？…だから、私たちは、日々、自分の犯した罪を神の前に正しく悔い改めて、その神様に清めていただく必要があるのです(Iヨハネ 1:9)。

何故なら、私たちが信じた…、真の神様は、完全に聖く正しい御方だからです…。あのアダムとエバが、たった1度、罪を犯しただけで…、たったの1度だけ、神様の命令に背いただけで…、エデンの園から出ていかななくてはならなくなったように…、その罪の結果、死ぬ者となってしまったように、神様は、罪を徹底的に憎まれます。だから、私たちも、徹底的に、罪を追求し…、罪を清めていかななくてはならないのです。

そうして、私たちがみことばを守り…、また、日々、罪を清めながら歩いていく…。その時に初めて、私たちは、神様の力を受けることができ…、悪魔に対して勝利していくことができるのです。今日のみことばである、エペソ 6:10 をご覧くださいますと、『主において、その大能の力によって強められなさい。』ということが教えられてあります。『大能の力によって…』とありますが、これは神様だけが持つておられる偉大な力のことです。すべての力の中で、最高最大の力です。それは、例えば、あの太陽を熱く燃え続けさせ…、あるいは、この地球にいのちを溢れさせるような…、そんな偉大な力のことです。

そしてまた、人間の中で誰一人、勝利できなかった死の力にさえ勝利された、あのイエス様の御力です！ あんな恐ろしい十字架にかかっても、約束通り、死に打ち勝って、3日目によみがえってこられたような…、そんな偉大な力を私たちクリスチャンは、神様から受けて、生きていくことができるのです！

<励ましの言葉>

最後に…、この『強められなさい…』という言葉ですが、これには、現在命令法という形が使われてあります。これは、つまり、そういったことを、一時的にではなく…、「ずっと継続して、やっていきなさい！」ということです。皆さんが生きられている間中、天に挙げられるまで、ずっとです！あるいは、イエス様にお会いする、その時までのことです。

そうして、この命令は、受動態、つまり、受け身で書かれてあります。…と言いますのは、天の神様が、私や皆さんのことを強くくださるからです！でも、ここのみことばが命令形であるということは、私たちが強くくださるのは神様であっても、その選択はある意味、私や皆さんの側にあるからです！要は、私や皆さん次第なのです！私たちが何を心から願い…、私たちが何を一番に望むかにかかっているのです！

神様からの力をいただきつつ…、悪魔と戦っていかれるのか？あるいは、戦うことを恐れ…、敗北を決め込んで…、せつかく、神様から与えられた人生を無駄に過ごしていくかの、どちらかです…。悪魔は、皆さんにこう囁くはず。「お前にはできない！お前は、したくないはずだ！お前は何かするな！」って…。

しかし、神様は、そうではありません！神様は、私たちに対して、「あなたにはできる！何故なら、わたしがあなたを助けるからだ！悪魔の誘惑に負けてはならない！屈してはならない！耳を傾けてはならない！」とおっしゃってくださっています！もしも…、本当に、皆さんのことが必要ないなら…、間違いなく、天の神様は、皆さんのことを、もう既に、天に上げておられるはず。…でも、そうじゃないでしょ？

どうか、悪魔の誘惑や、悪魔の策略などに負けないでください！せつかく、皆さんは、神様によって救われたのです！神のものとなされ…、神様の栄光を現わしていくことができるような者へと変えられたのです！どうか…、神様からの力を受けて…、日々、歩いていってくださいますようにお勧めいたします。最後に、お祈りをもって、今回のメッセージを終わらせていただきます。